

平成 25 年度第 3 回福生市図書館協議会会議録(要旨)

日時：平成 25 年 9 月 14 日（土）午前 9 時 30 分～午前 12 時

会場：福生市立中央図書館 2 階第 2 会議室

出席者：図書館協議会委員 8 名 図書館協議会事務局 7 名

(図書館協議会委員)

図書館協議会会長	松尾昇治
図書館協議会副会長	山根弓子
図書館協議会委員	高島絹子
図書館協議会委員	萬沢明
図書館協議会委員	田中恵子
図書館協議会委員	坪井由紀子
図書館協議会委員	山澤博子
図書館協議会委員	横田恵津

(図書館協議会事務局)

図書館長	島弘
図書館係長	柿田芳久
わかぎり図書館分館長	新居陽子
わかたけ図書館分館長	櫛貞雄
武蔵野台図書館分館長	山田房子
中央図書館図書館係主査	小澤敬子
中央図書館図書館係主査	森本恭子

(司会) 図書館小澤主査

- 1 図書館長挨拶
- 2 図書館協議会会長挨拶
- 3 議事

(1)「福生市立図書館基本計画(素案)」の報告及び質疑・意見聴取

【素案説明】(小澤主査)

(事務局)

素案の基本的な作り方は答申の37の御意見、御要望を大きく分類して、6つの体系の基本方針に当てはめて作成しました。また、今回行ったアンケートの改善要望度を一覧にしてみました。やや不満、不満というのは、こうあってほしいのにそうでないという改善要望と捉えることができると思います。

【資料説明】(図書館長)

(松尾会長)

答申の内容を上手に盛り込んでいただいていると感じました。第1章が計画の位置付け、第2章が現状と課題、その後解決策は第3章のところに基本目標が出され、施策として出て来ていると理解してよいと思います。最終ページでPDCAが取り上げられています。サイクルになってどんどん続いていくというイメージですね。

これからは、章順に御意見を伺っていきたいと考えています。

(事務局 字句の訂正については文章を直します。)

第2章 福生市立図書館の現状と課題

5 市民へのいろいろなサービス (2) ヤングアダルトサービス(青少年へのサービス)

(委員)

中・高校生をヤングアダルトの対象年齢層としているので、課題のところで高校生を取り上げてはどうでしょうか。

(事務局)

高校生は統計上把握していないのですが、何らかの形で表現したいと思います。

(松尾会長)

(3) 学校との連携事業ですが、国会で学校図書館法を改正して、学校司書という職名が正式に法制化されるという動きがあります。文部科学省でも学校司書の位置付けや仕事をどうするか、専門家会議を設置して7月から協議しています。そのことを御報告しながら、このところを見ていきたい。

(委員2名)

小学校の図書館はとてもよく利用されています。学校司書が配置されて間もないので、今後市全体としての集まりの時に、学校と学校司書が一体となってやっていけるように、努力が必要かなと思います。

(事務局)

これからいろいろ問題が出てくると思うが、学校図書館運営連絡会(指導室長、第五小学校長、第二中学校長、図書館長が参加)を作って整理していきたいと思いますので、何かあれば言っていただければ問題点としてまとめていきます。

(4) レファレンスサービス(調査・研究の援助)、(5) 地域資料、(6) 課題解決型サービス、(7) 視聴覚サービス、(8) 多文化サービス、(9) 障害者サービス、(10) 図書館に来館できない人へのサービス、(11) 市民との協働

(委員)

7 課題整理で、【経験豊かな専門的職員の確保】(15 ページ)とありますが、この根拠が(4) レファレンスサービスにしか記述がないので、6 図書館サービスを進めるために、にも入れると唐突な感じがしなくなると思います。

(委員)

15 ページの課題整理の最後の方にある「福生市人材育成基本方針」の何点かを書き出して、下の方に参考資料として付けてもらえると、こういうサービスをする人たちを育てよという視点なんだなというのが、明確になるのかなと思います。

(事務局)

そのようにします。

(委員)

【情報通信技術を活用した図書館サービス】のところで、市民の情報リテラシーを高めるとともに、とあるのですが、具体的にはどんなことをするのですか。

(事務局)

22 ページのところで、情報通信技術の具体的な施策を述べています。インターネット講座の開催の中で、市民が情報を活用する能力を高めるため、というところがそれを受ける形になります。

(松尾会長)

それでは16 ページの基本理念に基づく基本目標の1つ1つについて、施策という形で表の中に入ってきているので、基本目標の方をご覧いただきたい。

(委員)

⑤地域資料の充実を図り、地域文化の創造に寄与する図書館とあるが、資料を充実することは地域文化の継承という意味もあると思うので、地域文化の継承と創造に寄与する図書館にしたらどうでしょうか。

(事務局)

そうします。

(委員)

18 ページ、ヤングアダルト(青少年)サービスの充実のところで、高校生の運営参加はどうか。ヤングアダルトサービスの充実のところで、中・高校生新聞を発行しますというところに高校生は入っているのですが。

(事務局)

中・高校生等による新聞を発行します、という表現にします。

(委員)

17 ページに戻って、各図書館の機能分担の明確化とあるんですけど、5 ページのところにあるように徒歩 15 分圏内に図書館が配置されていることを目標にしているわけですから、機能分担をすると、結局DVDは武蔵野台にしかないの、どの地域に住んでいる方も武蔵野台に行かないと借りられない。リクエストすることはできますけれど、見ながら選ぶことができない状況だと思うんですけど。各分館にまたは中央館にDVDを設置することは不可能でしょうか。

(事務局)

逆に武蔵野台では、CDを持っていないということがあります。中央図書館には辞書類が充実していたり、量が多かったり、その中央図書館規模がDVDも入れて全部の地域にサービスできるかというとなかなかできないということです。そうすると、DVDは武蔵野台で所蔵して、あとはリクエストで市全体に行き渡るようにするとか、そういう選択しかないのかなと、思っています。中央図書館にDVDをとというのは今のところ考えられないです。それよりは視聴覚であればCDを充実するという事です。

(委員)

武蔵野台に駐車場はないのですか。

(事務局)

武蔵野台図書館、児童館用では5台。体育館の駐車場が3ヶ所にあつて、そこも使ってよいということになっています。そちらをご利用くださいということですね。

(委員)

18 ページの現在の図書館サービスではハンディをもつ人へのサービスでは意味が通じません。

(事務局)

表現を少し直させていただきます。

(松尾会長)

意味合いとしては十分対応ができていないサービス。タイトルの方は意味合いを考えて表現を変えていただきたいと思います。

(事務局)

わかりました。

(委員)

17 ページの機能分担の明確化のところ、武蔵野台にDVDがあるというように物が分かれてしまうと思うのですが、一部の人が知っているのではなく、福生市全体の人を知っているようにすれば、ふだん利用する図書館は小さいけれど、ここに行けばこういうものがあるということが分かれば、利用しやすいのかなと思います。

(松尾会長)

図書館運営の中でPR活動に努めるということをしてもらえればいいわけですね。

(事務局)

24 ページの広報活動の推進のところ、今言われたことはできなくはないと思います。

(松尾会長)

では、お願いします。

(委員)

成果指標のところ、CD、DVDの所蔵点数が増えたらアンケートの要望を受けて、貸出点数を増やすということを検討するということでしょうか。

(事務局)

今回のアンケートではCDの量が少ないということと、貸出点数が1点では少ないということがかなり出てきています。所蔵数については触れていますが、貸出点数については触れていないので、触れるようにしたいと思います。特にDVDの場合数が少ないので、CDの方が先になろうかと思いますが検討します。

(松尾会長)

基本目標2 市民が利用しやすく快適な空間のある図書館

(委員)

20ページ、どこに住んでいても図書館サービスが受けられる体制を目指します、宅配については有料のサービスは視野に入っていないでしょうか。

(松尾会長)

福生地域ではあえて有料にまで踏み込まなくてもよいのではないかと。

(事務局)

福生の場合市域が狭いからです。郵送料を取ってという形では、県レベルで有料でサービスしているところはあります。福生の場合市域が広くないので、ここまで踏み込むかなという感じがします。

(委員)

本の受け渡しについて施設の候補は決まっていますか。

(事務局)

最初の方の地図で福東地区と田園地区、意外と離れているのが、羽村寄りの加美地域の3ヶ所ぐらいです。相手がありますので、やり方をどうするか、地域会館、福祉センター、福東会館などで受入体制ができるか、その方向で検討ができないかということに入れさせていただいています。

(委員)

よく校外学習で使うバスが月一度でもすべての図書館を回るようにすれば。土・日曜日はいっぱいですが、平日でしたら空いている時もあると思うのです。月に一度でも図書館号みたいなのがあれば。一度行ってみないと、どこに図書館があるか分からないと思うので、一度行って見て、あとは自分で行ってみようということになるのではないのでしょうか。

(図書館長)

その方がどこに集まるか。

(松尾会長)

考え方とすれば市の施設巡りとして、行政の方でやってもらえれば。

(事務局)

市民の方が、高齢者とかいうことではなくて、施設見学号という。

(委員)

4月に転入してきた人が、福生を知る。

(委員)

福祉バスは日曜日は休みですね。

(委員)

福祉バスは現在どこまで来ているのですか。

(事務局)

図書館通りをずっと福生の方へ行って、バリューの駐車場のあたりです。

(委員)

福祉バスは反対周りが無い。

(事務局)

1周すると1時間ぐらいかかりますね。

(松尾会長)

基本目標3 市民の課題解決に役立つ図書館

(委員)

20 ページどこに住んでいても図書館サービスを受けられる体制を目指します、のところで、ボランティアが確保できなかつたら、お金を払ってでもボランティアを募集するとかしますか。

(事務局)

今行っているサービスは図書館に自力で来館できない人への宅配サービスですが、職員だけでやっていけない。そういう時に運転だけでもいいのでだれかやっていただけないか、そういうところでお手伝いいただける方を募集するということを想定しています。

(事務局)

現状では月に一度16,7人ぐらいが対象で、希望を聞いて持って行っています。一人暮らしの方も多く外に出られない方も多いため、我々が行くと、お茶でも飲んで行きなさいよと、世間話などそっこのほうを楽しみにしているみたいなんです。1軒に1時間2時間いれば喜ばれるのかもしれませんが、我々からすると次があるので、10分ぐらいで次に行くという。そこをボランティアさんに運んでもらって、一人暮らしで外に出られないお年寄りや少し会話でもしてもらおうと生きがいになっていくのかな。協力できないかと。

(委員)

ハードルの高いボランティアですね。

(事務局)

そうですね。

(委員)

食事の宅配サービスがあるが、お話し込みだとそれもできない。

(委員)

23 ページ病院との連携。若者たちは清潔志向になっているので、人が触った本はいやで
新刊しか買わないというの多いですが、病院に貸した本は殺菌していますか。

(事務局)

殺菌していませんが、拭いています。殺菌する機械はあるが値段が高い。持って行く時
と、返って来た時に拭くことをしています。

(松尾会長)

次は**基本目標 5 地域資料の充実を図り、地域文化の継承と創造に寄与する図書館**です
ね。

(委員)

25 ページの行政機関・議会への資料・情報提供を進めます、の担当者は図書館内で決ま
っていますか。

(事務局)

行政機関担当がいますので、同じく担当します。資料の提供と公文書については地域資
料担当がいます。市の公文書は保存年限が決まっています、それを過ぎると廃棄する。貴重
なものもあるので、何とかできないか。図書館と市役所で文書を扱っている部署と、郷土
資料室（文化財係）との 3 つの部署の連携が必要になると思うので、そういう機運が出た
時に図書館も加わりますよという意思表示と見ていただければ。

(松尾会長)

議会図書館ではなく議会図書室です。

(事務局)

確認します。ありがとうございます。

(松尾会長)

よろしいですか。**基本目標 6 長期的な視点にたった図書館運営を行い成長する図書館**。
ここでは、図書館の評価、図書館協議会の名前が出ています。なかなか評価は大変な作業
なんですよ。自己評価も大変だと思いますが。

(事務局)

この計画は 26 年度からスタートしますので、自己評価で成果指標の到達点をお示し
して、御意見、御感想をいただくことになります。

(松尾会長)

図書館協議会を 2 回増やして 5 回にする。2 回くらいで評価できると。評価項目の量に
もよりますが。

(事務局)

26 ページのところであれば、○が付いているところが一覧表になるかなと思っています。
見出しに○が付いているところが一覧表になって、これは進んでいる、進んでいないの評
価になっていくとイメージしています。

(松尾会長)

基本目標の1から6を全部ですね。

(事務局)

全部を全部やるというより、検討しますとなっている、その辺の状況はどうですかということ御説明して、評価していただくと。

(松尾会長)

来年度図書館協議会で評価の内容をご提示いただいて、協議させていただきたい。

(事務局)

はい。

(松尾会長)

施策の方向の4番目、図書館協議会等への外部評価の実施。「への」ではなく「による」のほうがよいのではないかと。

(事務局)

そうします。

(委員)

研修への参加を成果指標に挙げないのですか。

(事務局)

成果指標の追加ということですか。

(委員)

外部研修に1人1回は行くように。

(事務局)

現実に1人1回は行っていると思います。旅費が必要になりますが、都立図書館は広尾なので往復だけで1,700~1,800円かかる。職員全員が行くとなると。

(事務局)

成果指標を付けにくいところです。

(松尾会長)

評価項目に入れることはできると思います。今年度の研修は何回やりました、こんな研修をやりました。研修が十分行われていますという非常によい評価、あるいはもっと研修を行ってくださいというような。

(委員)

同じボランティアグループのメンバーで小さい頃図書館に来ていて、今は子どもを連れて来ている。小さい頃に図書館サービスであったかい対応をしていただいて、それが今育っているということを考えますと、職員がカウンターサービスを充実することが図書館の発展の根本になる。研修だけでは育たないと思いますが、ぜひ全体として研修に取り組んでいただくよう積極的にそのところをお願いします。

24 ページの館報は、魅力的な紙面を作る方向にさせていただけるということでしたね。予算を取っていただいて、カラーで地図もきれいで行ってみたいと思うような。新着案内はあるけれど、書名やDVDのタイトルがずら一と並んでいてあまり見ない。ビジュアル

ル的にして、予算を付けていただいて。登録率アップにはPRが必要なのかなど。

(事務局)

そうですね。

(松尾会長)

5 推進のための体制の、(3) のところで評価をやってその後すぐ次年度に取り入れるのは難しい。この部分を次年度以降の計画に活用します、にするほうがよい。

(事務局)

ありがとうございます。

(委員)

- ① 成果項目は全部出さなくてよいのですか。
- ② 寄付を募るのはどうですか。
- ③ タブレットを用意してOPAC検索をするというのはどうですか。座れる場所があれば使えるので高齢者や子供にも使いやすいものにしてほしい。

(松尾会長)

①については、成果項目は数字で表せるもの、表せないものがあるので、数字で表せないものは、他の方法で。

(事務局)

他市の計画も見ましたけれど、全部を載せているのではないと思います。

(松尾会長)

評価項目の中にことばの表現などを使って、やっていけばいい。これは基本計画ですからすべてを盛り込まなくてもよいと思います。

(委員)

私も目標冊数とか目標年度など具体的な数字が書いてあるのは評価しやすいと思いました。もう少しほしいのは、PR活動の中で図書館報を年に何回とか、ホームページを1ヶ月に1回更新するとか数字が具体的にになるといいと思います。職員の仕事の量でごく左右されるのかなと思います。出せるところは出していけるような形だと。それは公約になります。

(事務局)

ホームページの更新回数を指標にしてみたいと思います。

(委員)

8のサービスで、アンケートの結果ですが、8%から10%の人から批判がある。不満が1件あったら10倍あると思うこと。実際100人以上の方が接客態度が悪い、説明の分かりやすさにも96の人が不満を持ったということ、頭に思い描いていただいて、今のままで満足してはではなく、身を引き締めて数字を自覚してもらいたい。きびしい意見で申し訳ないが、研修が大事だということを入れてもらえたらいいと思います。

(松尾会長)

寄付は図書館運営の面で御検討いただければよい。雑誌を年間購読という形でするとこ

ろがある。タブレットについては調査研究していただいて、入れるように御検討いただければと思います。

(委員)

素案は多岐に亘っているが、現行の人員体制でできるのかというのがあります。評価をする場合は組織と利用者調査合わせの評価になっていくと思います。今年は何、今年は何と設定していかないと、評価は難しいと思います。

それから、高齢者施設との連携というところでは、有料ホームがあったり、公的なホームがあったりしますが、そこで図書館が資料を提供するというので、映像資料を貸してレクリエーションに使うとかその際の貸出システムをどう対処するのか検討しながら、高齢者施設との連携を考えていっていただきたいというのが、私の感想です。

(松尾会長)

10年間の計画ですから10年間の間にしていなければ。

(事務局)

今後の予定ですが、この計画は最終的に教育委員会が出す計画ですので、10月に教育委員会で検討になってくると、その後御意見をいただいてもなかなか動かさないと。11月に庁内、その後議会に報告して、市民からのパブリックコメントを募集するというのが全体の流れです。

(松尾会長)

11月に通常の報告事項、前年度の事業報告などをしていただくとして、計画案の進捗状況の報告と合わせて開くことでよろしいですか。最終的には、庁内的な手続きを踏んで、このようになりました、という報告を2月頃いただければよいと思います。

4 その他 配布資料説明

- ・40周年記念講演会 講師：増田明美
- ・本はともだち応援隊

次回の日程 11月30日(土) 午前10時から